

春まき小麦の安定生産

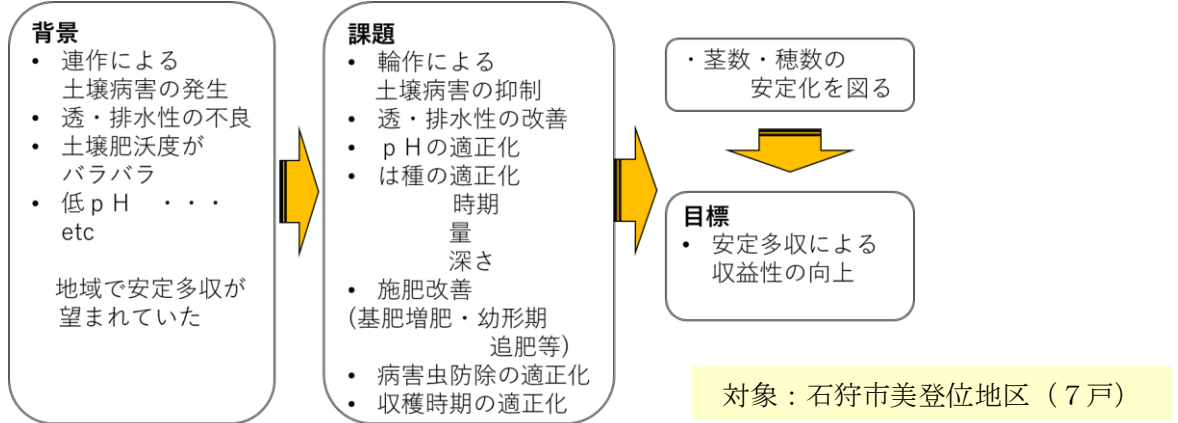
は種精度を高め、茎数・穂数の確保で安定生産

活動年次：令和3～4年

石狩農業改良普及センター石狩北部支所

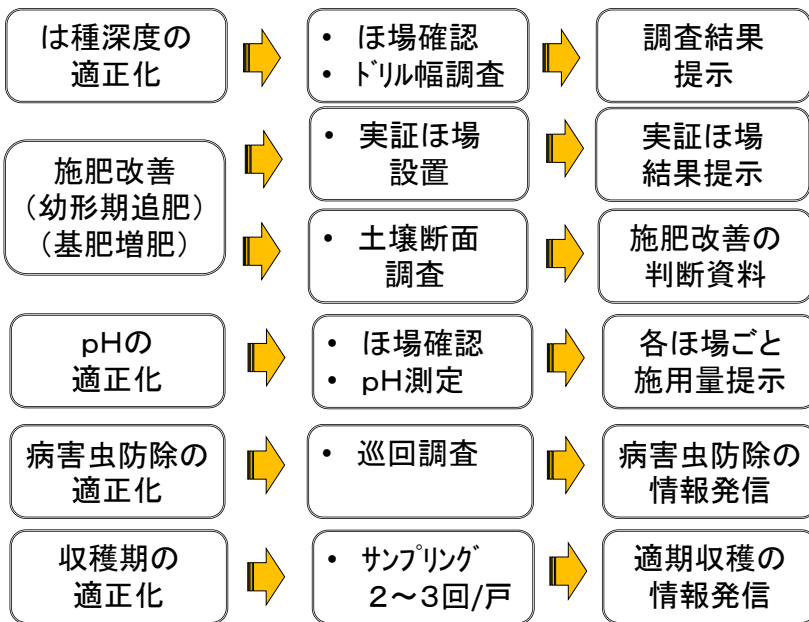
1 課題設定の背景

春まき小麦の10aあたりの収穫量が安定しないのは・・・
茎数・穂数に年次間差有り→不足しているから？

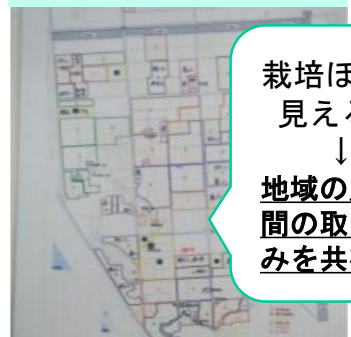


2 活動の経過

課題解決のため →全戸で1筆定点ほ場を設置
ほ場条件・耕種概要などを聞き取り、要因解析、実証、情報発信



スムーズな活動のために



栽培ほ場の見える化
↓
地域の農家間の取り組みを共有化

作付け予定地の耕地図作成（4月）



ドリル幅で各列毎のは種深度を把握（5月）



中間報告、病虫害防除の情報発信（7月）



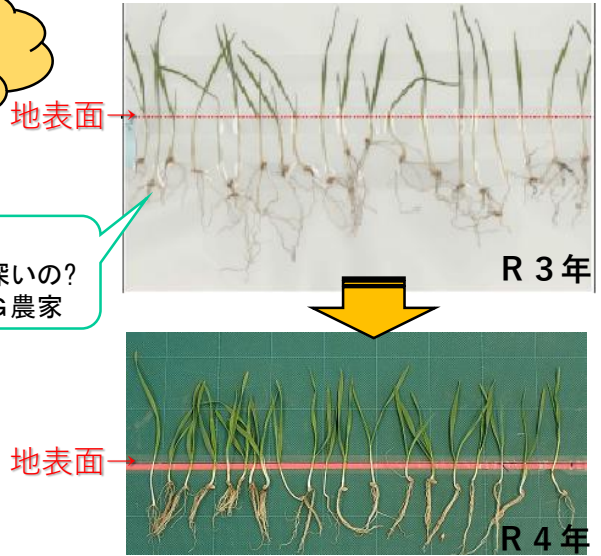
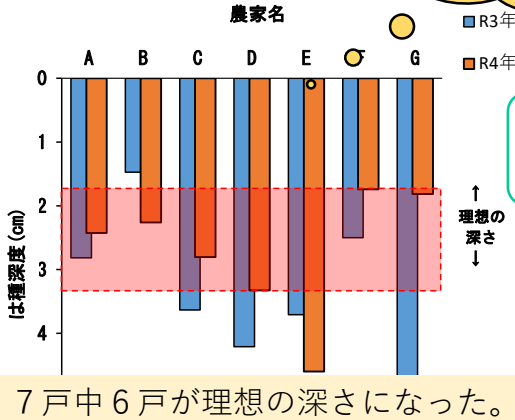
定点ほ場・実証ほ場で調査（4～8月）



活動結果の報告・検討会（12月）

3 活動の成果

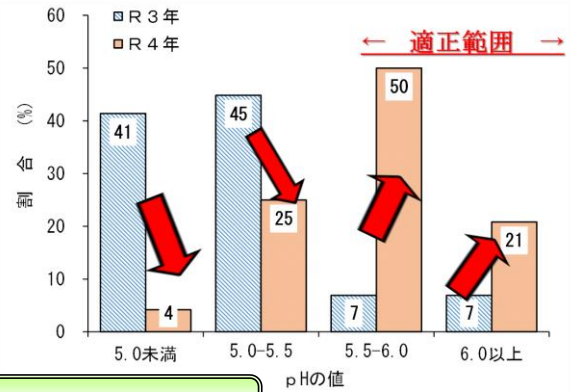
は種深度の適正化



pHの適正化

麦類作付け予定の全ほ場で土壌分析を行い、pHを矯正する施用量を提案した。全戸でpHが矯正された。

適正範囲の割合が高くなった。

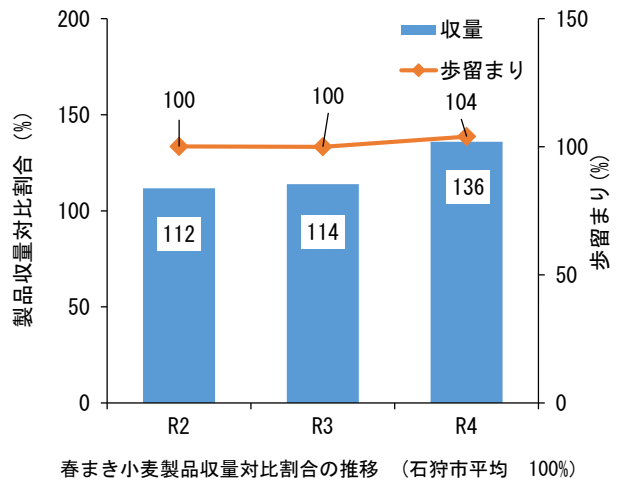
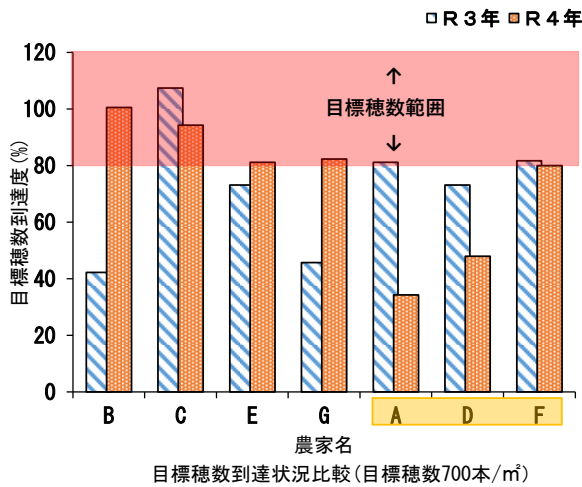


目標穂数の確保

目標穂数範囲の達成戸数は5戸となった。

10aあたり収穫量

地域の平均収穫量は石狩市平均より高く、歩留まりも高かった。



4 今後の活動

- ・ 耕地図を活用し農家各戸・普及センター職員相互の情報共有を続ける。
- ・ 得られた有用な情報について地域へ波及・定着に向けた取り組みを行う。